カルデナス（キューバ）の都市形成と街区分割に関する考察
CONSIDERATIONS ON URBAN FORMATION AND BLOCK DIVISION
OF CÁRDENAS (CUBA)J.R. ヒメネス ベルデホ*, 布野 修司**, 山田 協太***
Juan Ramon Jimenez VERDEJO, Shuji FUNO and Kyota YAMADA

Authors have been conducting the field research under the title ‘Origin, Transformation, Alteration and Conservation of Urban Space of Colonial cities’ since 1999. This paper discusses the characteristics of the Spanish colonial cities established in Cuba focusing on Cárdenas as a typical urban model. This study has been accomplished based on the analysis of old maps corresponding to colonial Spanish period and field survey.

Cárdenas was planned by Andrés José del Portillo who introduced the very simple gridiron system based on the single plot of same size in the late 1820's. and maintained the original structure. We clarified the original model and transformation of Cárdenas based on the analysis of block size, block division, and plot subdivision.

Keywords : Cuba, Spanish colonial city, Laws of Indies, City Model, Block Division, Grid
キューバ、スペイン植民都市、インディアス法、都市モデル、街区分割、グリッド

1 研究の目的と背景

本稿は、キューバのスペイン植民都市^{注1)}に関する研究の一環として、カルデナスをとりあげ、その都市空間構成の特徴を街区構成を中心に論じ、街区分割、宅地分割のパターンを明らかにすることを目的としている。本稿に先立って、都市計画図^{注2)}が残されているスペイン植民都市の類型化を行い^{注3)}、続いてキューバのスペイン植民都市の全体概要とともに、26都市について、その類型を明らかにした^{注4)}。以上を前提とするカルデナスの位置づけは以下の通りである。

キューバのスペイン植民都市は、街路体系として、グリッド・パターン（直交街路パターン）を採るものとそうでないもの（不規則なもの）があるが、後者のパラコーア Baracoa、バヤモ Bayamo、プエルト・プリンシペ Puerto Principe、トリニダード Trinidadなどは、ほとんどがヴェラスケス Diego Velázquez^{注5)}の時代に建設されたものである。これを第Ⅰ類型とすることができる。一方、スペイン植民都市の特徴とされる直交グリッドの街路体系をもつ都市でも、インディアス法^{注6)}が理念化するような完結的な形（矩形）を採るものとそうでないものに分けられる。前者が第Ⅱ類型^{注7)}、後者が第Ⅲ類型となる。カルデナスは第Ⅲ類型の典型である。カルデナスは、拡張を考慮して、当初から3つの広場をもつユニークな都市である。

スペイン植民都市については、インディアス法^{注8)}の規定に基づいて、その基本理念が一般的に論じられるが、実際には、簡略化されたものも多いし、かなりのヴァリエーションがある。本稿は、当初の計画とその後の変化を、街区分割および宅地分割のパターンに焦点を当てて具体的に示す意義を有している。

スペイン植民都市に関する論文は枚挙にいとまがないが、本稿が前提とする主要な文献は末尾に挙げる通りである。英語文献については、Kagan、Richard L (2000)¹⁹⁾に詳細な文献リストがある。ま

た、日本語文献については、布野修司編『近代世界システムと植民都市』（2005）^{注9)}に文献リストがある。

現地調査は、第一次調査（2005年6月6日～21日、J.R. ヒメネス・ベルデホ）、第二次調査（2006年8月13日～9月3日、J.R. ヒメネス・ベルデホ、布野修司、応地利明、山田協太）の二回行った。

2 カルデナスの歴史的形成

カルデナスはマタンザス Matanzas 州 *provincia*^{注10)} の22のムニシピオ *municipio*（自治体）のひとつで、マタンザス港(18 レグア legua^{注11)}西)とサグア・ラ・グランデ Sagua la Grande 港(50 レグア東)の間にある港町で、面積は33km²、現在、8つのバリオ barrios（住区）、カンテル Cantel、フンディシオン Fundición、グアシマス Guásimas、マリナ Marina、メンドス・カポテ Méndez Capote、プエブロ・ヌエヴォ Pueblo Nuevo、ヴァアラ

図1 キューバとカルデナス

* 滋賀県立大学環境科学研究科 講師・芸術工博

** 滋賀県立大学環境科学研究科 教授・工博

*** 鳥取環境大学 助手・工博

Lecturer, Graduate School of Environmental Planning, University of Shiga Prefecture, Ph. D.
Prof., Graduate School of Environmental Planning, University of Shiga Prefecture, Dr. Eng.
Assistant Prof. of Tottori Environmental University, Dr. Eng.

図2 カルデナス 1943 年.

出典 : Cardenas Municipality Map. Direccion General de Censo. 1943. Barrios
1- Candel. 2- Fundicion. 3- Guasimas. 4- Lagunillas. 5- Pueblo Nuevo. 6- Marina. 7- Varadero.
8- Versailles.

デロ Varadero、ヴェルサイエス Versailles からなる(図2)。

カルデナスの歴史については、カルデナス歴史博物館 Museo de Historia de Cardenas.において、歴史家である館長のエルネスト・アルバレス・ブランコ Ernesto Álvarez Blanco の教授を受けた。また、その著 Blanco (1991) の他、Chavez. (1930)、Blanco (1991)、Anonimus (1838)、Resumen (1842.) といった文献を入手することが出来た。以上の文献をもとに、以下の考察に必要な歴史の概要をまとめると以下のようである。

①カルデナス周辺は大部分が湿地帯であり、耕作が難しく、16 世紀初頭には入植者はほとんどいない。16 世紀半ば以降、プンタ・ヒカコス Punta Hicacos と呼ばれる海岸地域で塩の精製と軍艦製造のための材木の伐採が行われる。そして、17 世紀には黒人奴隷が導入されるが、牧畜や耕作は極めて困難であった。

②キューバの場合、スペインからの入植者には、一定の囲い地、すなわち牧畜のための土地ないし農地が与えられた。それをコラル coral (corral)、あるいはハト ható という。コラルは半径 1 レグア、ハトは半径 2 レグアの円形の土地である。このユニークなハト・コラルによる土地分割システムに

ついては、先行論文^(注2)において考察するところである。カルデナスは、R.V. ルーセット Rousset, Ricardo V. (1918.)²³⁾に依れば、17 世紀から 18 世紀にかけて、8 つのコラルからなっていた。(表 1、図 3)。

③もともとサン・ホアン・デ・ラス・シエガス San Juan de las Ciegas と呼ばれていたこの地域がカルデナスと名付けられたのは 1709 年であり、この地での牧畜を許可したハバナの総督マテオ・デ・カルデナス・ゲヴァラ Mateo de Cárdenas Guevara に因む。

④カルデナスが発展し始めるのは 19 世紀に入ってからである。1821 年には、カルデナス地域には、ベルナルド・カリヨ Bernardo Carrillo^(注3)に割り当てられたハトがひとつあるだけであった²³⁾。1820 年代に、スペイン人およびフランス人の入植者がコーヒー、トウモロコシ、野菜などの栽培を始める。1823 年から 1825 年にかけて、ラホンチョロ Lajonchoro というチャールストン出身のアメリカ人によって、ハバナから海岸沿いに道路が建設されると、1827 年に植民地政府は、マタンザスの管理官ホアン・ホセ・デ・アラングレン Juan José of Aranguren による新港建設を決定している。カルデナスの都市計画図が作成されるのはこの直後のことである。

④道路建設の後、キューバ第二の鉄道線がカルデナスに引かれたのは 1841 年である。鉄道の敷設は市の発展の大きな基礎となった。1841 年には教会と墓地がつくられている。1842 年には人口 2008、住戸数 293 という記録³⁾がある。139 人が商業に従事し、周辺に 38 の煙草工場と 40 のコーヒー・プランテーション、さらに 223 の放牧場があった。1844 年にはカルデナス港がつくられ、砂糖プランテーションはますます盛んになる。1846 年に消防署が建設され、1857 年にはガス灯が導入されている。1859 年に市庁舎が建設され、1862 年には港が拡張されている。人口は 12000 人を数え、キューバで 11 番目の都市となる。当時、147 砂糖工場があった。水道が設置されたのは 1872 年である。

⑤1880 年以降、瓦、ビール、石炭、鋳物など様々な工場が建設され、世紀末には人口 21,940 人 (1899 年)、キューバ第 6 位の都市となった。

⑥しかし、共和国時代(1901-1959)は、産業の発展は低迷し、1943 年には人口 37,059 人、第 9 位の都市に後退している。

⑦現在の市域は、キューバ革命の時点とそう大きくは変わっていない。

3 カルデナスの都市計画

カルデナスの都市計画は、土地測量士アンドレス・ホセ・デル・ポルチヨ Andrés José del Portillo によってなされた(図4)。彼はスペイン人であったが、北米で学んだ技師であった²³⁾。このスペイン人について今のところ詳細は不明であるが、カルデナスの都市計画が、当初からインディアス法の

図3. 1 プンタ・ヒカコス図 1817.

出典 : AGI. MP ST72.

2 カルデナスのコラル図

出典 : Ricardo V. Rousset. La Habana 1918

表 1 カルデナスのコラル

番号	名前	年	所有者
1	Guásimas	1628	Antonio Raminrez
2	Lagunillas	1635	Martín R. De Oquendo
3	Siguapas	1702	Diego Sotolongo
4	Cárdenas	1714	José Sotolongo
5	Nuevo	1719	Bernabé Orta
6	San Cristobal	1724	Francisco Sotolongo
7	Precioso		
8	Guanajayabo		

7.8 の設置年、所有者は不明

規定するモデルとは異なった、延長可能なグリッド・システムを採用していることは、全くの推測であるが、19世紀の世界的な都市計画の動向、とりわけ北米の都市計画の趨勢とも関連があると考えられる。

3-1 当初の都市計画

全体計画：図4には、海岸部から街路ナンバー（I-XI）が振られているが、宅地に付された番号を見ると、まず、中央広場の北（北東部）と南（南西部）で大きく二分されていることがわかる。ただ、グリッドに沿うかたちではなく、グリッドを斜めに欠かたちで、折れ線でその境界が引かれていて、北が1期、南が2期という表記に思われる。北は宅地番号のみ振られ、中央軸線の左右で分けられている。東（東南部）は、軸線にそって1~12まで南へ、そしてユーターンして13~24、海岸部にはみ出て以下39までリニアに振られている。西（北西部）も同様、1~56まで振られている。計95宅地で、空き地が相当ある。2期と思われる南は左右でまずブロック番号がそれぞれ1~17、計34振られている。そして各街区の宅地番号は原則として西は時計回りに、東は反時計回りに振られている。グリッドという整然とした形をとりながらいささか奇妙である。

地図に付された文章に依ると、まず海岸線から400ヴァラの距離までが王室のものとされ折れ線より北の海岸部が宅地割りされ（1828年）、続いて南も王室によって取得され、全体計画がなされたことがわかる。地図には折れ線より南は2カバレリア^{注4)}からなる、とある。中央幹線道路の幅員を20ヴァラ、他の道路を14ヴァラとして計算すると、ほぼ2カバレリアとなる^注

¹⁵⁾ から、2カバレリアの土地を買収して街区割りをしたと推測される。

M. G. R. ルスメン Resumen(1842)²³⁾に依れば、沿岸部の宅地は200ペソ pesos、角地は150ペソ、他の宅地は100ペソで売買され、リアル・アシエンダ Real Hacienda（王立財務局）には毎年売買価格の5%支払うという規定であった。

街区単位：1830年の計画案は、極めて単純で、基本的に間口30ヴァラ varas^{注6)} × 奥行40ヴァラ = 1200平方ヴァラの宅地を単位とし、8(2×4)宅地(80 varas x 120 varas) ないし6(2×3)宅地(80 varas x 90 varas)で1街区とする構成である(図5)。当初の計画の全体は、海岸部の不整形街区を除くと、6街区×8街区の構成となる。中央幹線道路の幅員は20ヴァラ、他の道路は14ヴァラである。

広場：他のスペイン植民都市と比べて変わっているのは広場で、中央広場のほかにも南端部の東西に2つ、計3つの広場が配されている。当初から3つの広場を持つスペイン植民都市の例は極めて珍しい^{注17)}。広場を核として、街区が東西、南に拡張していくことが想定されていたと考えることが出来る。また、中央広場を貫く形で、中央幹線道路が計画されているのも特徴的である。フェルナンドVII世広場 Plaza de Fernando VIIと名付けられた中央広場は、90ヴァラ x 90ヴァラ、他の二つの広場は80ヴァラ x 90ヴァラである(図5)。広場の西にはサン・シプリアノ・デ・グアマカロ教会 Iglesia San Cipriano de Guamacaro (1846)、東にはエステバン・パロディ邸 Casa de Esteban Parodi (1834-36)とセシリオ・アイヨン邸 casa de Cecilio Ayllon

図8 街区規模と形状の変化

(1840)、南にはアレハンゾロ・カポテ邸 casa de Alejandro Capote (1847-49) とゲッラ・ナヴァッロ邸 casa de Guerra Navarro (1849)、北にはレアル・クアルテル邸 casa del Real Cuartel (1836-38) とフランシスコ・コロメル・エスピル Bodega Francisco Colomer Espriu (1830) が建てられた。

3-2 都市の発展

都市は北から南に発展していく。カルデナス市の都市計画局 Direccion de Arquitectura y Urbanismo de Cardenas においてその発展過程を示す地図を入手することができた。それを図示すると図6のようになる。

まず、1840 年までは中央広場より北が開発される。そして、19 世紀後半に南が宅地化され、当初の計画域を超えて発展を始めている。市域は、軸線

図7 カルデナス 2006. Google Earth

図9 カルデナスの都市計画図 (部分)

図10 街区の類型。

a) 中庭式住居 b) 一戸建て c) 集合住宅 d) 空き地その他

上に拡大していくというより、軸に対して対角線上に菱形形に拡張しているのが興味深い。当初計画案の軸線は東西南北の軸からほぼ45度傾いており、菱形は東西南北を向くかたちになる。第二次世界大戦後に当初の街路パターンを対角状に横切る道路が敷設されていることは、東西南北軸が意識されていることの証左である。

現在の街区割りを見ると、周辺部では、上述の間口30 ヴアラ varas × 奥行40 ヴアラ = 1200 平方ヴァラの宅地を単位とする街区構成とは異なったパターンがある(図7、図8)。すなわち、時代が下るとともに異なった街区規模と形状が採用されてきている。

4 街区分割のパターン

当初の宅地割り図と都市計画局で入手した地図(図9)および航空写真(図7)の比較することによって宅地分割の変化を知ることができる。

街区の類型

現状を街区全体についてみると、街区全体が中庭(パティオ)式住居からなる街区aと戸建て住宅からなる街区b、そして集合住宅からなる街区cがある。また、当然、a,b,cが混在する街区がある。図10に示すように、中心部の歴史的地区は、中庭式住居からなる街区aが集中する。すなわち、当初は中庭式住居が一般的であったと考えられる。そして、宅地分割が行われることによって、中庭式住居とは別の形式として、戸建て住宅が建てられるようになる。また、細分化の進行とともに、街区の中に袋小路がつくられるケースがでてきたと考えられる。

宅地分割パターン

宅地分割パターンを、最初期の中心部28街区(8(2×4)宅地(80 x 120 varas)の24街区(192宅地)、6(2×3)宅地(80 x 90 varas)の2街区(12宅地)、3宅地(40 x 90 varas)の2街区(6宅地) = 計210宅地)について見ると以下のようである。図11に各街区の宅地数(図11c)と各宅地の分割数(図11b)を示す。また、図12に、宅地の分割数と分割パターンを角地と角地以外(一辺のみ街路に接する宅地)に分けて示している。

分割が起こっていない宅地は全部で9あるが、そのうち6つは中央広場に面する敷地である。サン・シプリアノ・デ・グアマカロ教会、エステバン・パロディ邸、アレハンゾロ・カポテ邸の敷地はそのまま使われ続けている。また、北部に3宅地があるが、それらも倉庫用地として使われ続けている。

9分割された宅地が2、8分割された宅地が3あるが、間口30 ヴァラの角地でない宅地の場合、6分割の宅地1を除くと、他の101の宅地は5分割以下である。最も多いのは3分割で45 (44.1%、45/102)、4分割が25 (24.5%)、2分割が24 (23.5%)である。角地の場合、7分割が14 (角地108の13.0%、全体210の6.7%)ある。全体を見ると、3分割が最も多く62/210 (29.5%)、続いて、4分割が41 (19.5%)、2分割が37 (17.6%)である。

以上、各宅地の間口と奥行きをプロットすると図13のようになる。南北長さ(間口)については、平均=10.16 ヴァラ、最小値4 ヴァラ、最大値30 ヴァラである。もとの宅地の幅30 ヴァラを3分割した敷地、間口10 ヴァラ前後(9~11 ヴァラ)の宅地は、31.4% (252/802)もある。その内東西方向が40 ヴァラの宅地が104 (全体では351宅地)である。また、東西長さ(間口)については、平均=30.47 ヴァラ、最小値4 ヴァラ、最大値40 ヴァラである。全体で、30 ヴァラ前後(29~31 ヴァラ)の宅地が216宅地ある。面積は、平均312.7平方ヴァラ、最小30平方ヴァラ、最大1200平方ヴァラである。すなわち、当初の30 ヴァラ×40 ヴァラという宅地は、細分化されて、10 ヴァラ×30 ヴァラないし、10 ヴァ

図13 宅地の間口と奥行き

ラ×40 ヴァラという宅地が標準宅地になっていることがわかる。

まとめ

カルデナスは、19世紀初頭に極めて整然と計画されたスペイン植民都市として、現在もその骨格をよく留めている。ただ、完結的な基本モデルは採用されず、当

図11 a 詳細調査の街区

図11 b 宅地分割数の分布 c 街区の宅地数

Kは角地 Iは前面のみ道路に面する

分割	<div><div><div><div>K</div><div>K</div></div><div><div>K</div><div>K</div></div><div><div>K</div><div>K</div></div><div><div>K</div><div>K</div></div></div><div><div><div>I</div><div>I</div></div><div><div>I</div><div>I</div></div><div><div>I</div><div>I</div></div></div></div>											合計			
1	<div><div><div></div><div></div></div><div>K1 (6)</div></div>										6	<div><div><div></div><div></div></div><div>I1 (3)</div></div>	3	9	9
2	<div><div><div></div><div></div></div><div>K2a (7)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K2b (6)</div></div>									13	<div><div><div></div><div></div></div><div>I2 (24)</div></div>	24	37	74
3	<div><div><div></div><div></div></div><div>K3a (4)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K3b (8)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K3c (5)</div></div>								17	<div><div><div></div><div></div></div><div>I3 (45)</div></div>	45	62	186
4	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4a (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4b (3)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4c (4)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4d (5)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4e (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4f (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K4g (1)</div></div>				16	<div><div><div></div><div></div></div><div>I4 (25)</div></div>	25	41	164
5	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5a (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5b (2)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5c (4)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5d (2)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5e (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5f (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5g (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5h (2)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5i (2)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K5j (3)</div></div>	19	<div><div><div></div><div></div></div><div>I5 (2)</div></div>	4	23	115
6	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6a (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6b (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6c (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6d (3)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6e (2)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6f (3)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6g (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6h (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6i (4)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K6j (1)</div></div>	18	<div><div><div></div><div></div></div><div>I6 (1)</div></div>	1	19	114
7	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7a (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7b (2)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7c (4)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7d (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7e (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7f (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7g (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7h (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7i (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K7j (1)</div></div>	14			14	98
8	<div><div><div></div><div></div></div><div>K8a (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K8b (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K8c (1)</div></div>								3			3	24
9	<div><div><div></div><div></div></div><div>K9a (1)</div></div>	<div><div><div></div><div></div></div><div>K9b (1)</div></div>									2			2	18

図12 宅地分割のパターン Kは角地 Iは前面のみ道路に面する

初よりグリッドの拡張が前提とされていた。この点、同じく 19 世紀初頭に建設された港市都市シエンフエゴス^{注18)}とは異なる。シエンフエゴスの場合は、完結的なモデルがあり（第Ⅱ類型）、それが延長していくかたちを採った。地形によって 45 度振れた軸線も後に採用されている。

本稿で明らかにした主要な点は以下である。

カルデナスは、スペイン植民都市として、いわゆるインディアス法に基づかない、予めグリッドを拡張することを前提とした都市モデルに基づいている（第Ⅲ類型の具体的事例である）。

そして、市域の拡大は、当初の単純なグリッドを延長する形で行われ、後年、周辺部において当初と異なった街区割りも採用されるが、その当初のシステムによる骨格は今日にまで維持されている。

カルデナスでは、基本的に間口 30 ヴァラ×奥行 40 ヴァラ=1200 平方ヴァラの宅地を単位とし、8 (2×4) 宅地 (ないし 6 (2×3) 宅地) で 1 街区とする極めて単純なシステムが用いられている。

宅地の分割は、時代とともに行われるが、街区そのものが大きく再編されることはない。全体を見ると、3 分割が最も多く 62/210 (29.5%)、続いて、4 分割が 41 (19.5%)、2 分割が 37 (17.6%) である。現在では、10 ヴァラ×30 ヴァラないし、10 ヴァラ×40 ヴァラという宅地が標準宅地になっている。

すなわち、カルデナスは、以上のような街区割り、宅地割りの設定によって、グリッド・システムをかなり安定したシステムとして維持してきた事例と評価できる。

この宅地分割と関連する住居類型とその変化については別稿としたい。

参考文献

- 1) Academia de ciencias de Cuba y la URSS, Atlas Nacional de Cuba, 1970.
- 2) Alcina Franch, Jose, La ciudad hispanoamericana. El sueño de un orden, El pasado prehispanico y el impacto colonizador. CEHOPU. CEDEX. Madrid. 1997.
- 3) Anonimus. Historia Estadística del pueblo y puerto de Cardenas. Memorias de la Real Sociedad Patriótica de La Habana. No.28. 1838.
- 4) Arteaga Zamaran; La ciudad Iberoamericana, La Urbanización hispanoamericana en las Leyes Indias, Actas del Seminario Buenos Aires 1985. CEHOPU. Madrid. 1987.
- 5) Bannasar, Bartolome; Obras Hidráulicas en America colonial. El agua en el nuevo mundo, M.O.P.T.M.A. Madrid. 1993.
- 6) Blanco. Apuntes, Ernesto Alvarez, Historicos sobre la ciudad de Cardenas y su centro urbano antiguo. 1991.
- 7) Calderon Quijano y Jose Antonio; Fortificaciones en Nueva Espana. C.S.I.C. Madrid. 1984..
- 8) Chavez, Leonardo Garcia. Historia de la Jurisdicción de Cardenas. 1930.
- 9) Comité de estadísticas. Instituto cubano de geodesia y cartografía. La Habana., Atlas demografico Nacional. Cuba., 1985. Juan de las Cuevas Toraya. Servicios graficos y editoriales. La Habana 2001. 84-607-3159-6.
- 10) Cuba Ilustrada. Real comision de Guantanamo 1792-1802. Quinto Centenario. 84-7782-166-6
- 11) Dianas Rubio, Pablo; Estudios sobre urbanismo ibero-americano. Siglos XVI al XVIII, Plaza y espacio publico en la Baja Andalucia, J.A. Sevilla. 1999.
- 12) Dominguez Ortiz, Antonio; La Conquista y la Ocupacion del territorio, Andalucia en America, El legado de ultramar. J.A. Barcelona. 1995.
- 13) Gonzalez Garcia, Pedro et al; Archivo General de Indias, Ministerio de Educacion y Cultura, Lunwerg, Barcelona, 1988.
- 14) Weiss Joaquin E, La arquitectura colonial cubana. Junta de Andalucia: C.O.P.T. Instituto cubano del libro. Madrid. 1997. 84-8095-083-8
- 15) Gonzalez, Julio; Catalogo de mapas y planos del Archivo General de Indias. D.G.A.B. Madrid. 1985. CIDA. 16 16.
- 16) Gonzalez Julio, Catalogo de mapas y planos de Santo Domingo, Madrid 1973.
- 17) Hardoy Jorge E, “La forma de las ciudades coloniales en la America Espanola Estudios sobre la ciudad iberoamericanas”, C.S.I.C., Madrid, 1983.
- 18) Zengedui, Guillermo de, Las primeras ciudades Cubanas y sus antecedentes urbanisticos. Cuban National Heritage and Ediciones Universal. Miami. 0-89729-836-5.
- 19) Kagan, Richard L, Urban Images of the Hispanic World 1493-1793, Yale University Press, New Haven & London, 2000.
- 20) León, Pedro Ponce de, Historia del Término Municipal de Nueva Paz. Editorial "Clipper", 1946.
- 21) Marrero, Levi., Geografía de Cuba., La Habana. 1951.
- 22) Rousset, Ricardo V, Historia de Cuba., La Habana 1918.
- 23) Resumen, M.G.R., Historico del Pueblo de Cardenas desde el año 1822. hasta 1842. Faro Industrial de La Habana. 1842.
- 24) Solano, Francisco de; Normas y Leyes de la ciudad Hispano-americana 1492-1600. C.S.I.C.. Madrid. 1990.

- 25) Solano, Francisco de; Ciudades hispanoamericanas y pueblos de indios. C.S.I.C. Madrid. 1990.
- 26) Rodriguez Vicente, Encarnacion, El comercio entre Espana e Indias, Historia Urbana de Iberoamerica .Consejo Superior de los Colegios de Arquitectura de Espana. Junta de Andalucia, Madrid. 1987.
- 27) Vuelas Toraya, Juan de las, 500 años de construcciones en Cuba. Cuba, Chavin. Madrid. 2001. 84-607-3159-6.
- 28) Carlos Hellberg, Historia estadística de Cardenas. 1893. Comité pro-calles de Cardenas. 1957.

注

- 注1) 何故、キューバの都市を取り上げるか、については、第一に、スペインの植民地化の最も初期から都市が建設され、20 世紀初頭までスペイン植民地であり続けたこと、第二に、1950 年代末のキューバ革命以降の社会主義体制の下で、他の中南米地域と比較して大きな変化がなかったことが上げられる。さらに、世界都市史を考える上で、スペイン植民都市として、ハバナ La Habana の他、サンチアゴ・デ・キューバ Santiago de Cuba、トリニダード Trinidad、シエンフエゴス Cienfuegos が世界文化遺産都市に登録されていることも大きい。
- 注 2) 本研究の遂行過程で、セビージャ Sevilla のインディアス古文書館 El Archivo General De Indias (AGI) に収蔵された植民都市関連地図資料全 7152 枚をマイクロフィルム形で入手することができた。
- 注 3) J.R.ヒメネス・ベルデホ、布野修司、齋木崇人、スペイン植民都市図に見る都市モデル類型に関する考察、Considerations on Typology of City Model described in Spanish Colonial City Map、日本建築学会計画系論文集、第 616 号 pp91-97、2007 年 6 月
- 注 4) J.R.ヒメネス・ベルデホ、布野修司、山田協太：キューバのスペイン植民都市モデルの類型に関する考察、Considerations on Typology of Spanish Colonial City Model in Cuba、日本建築学会計画系論文集、第 619 号 pp133-139、2007 年 9 月。 Considerations on Distribution of Cemeteries and Transformation of Urban Area in Kyoto、J. Archit. Plann. AIJ、No.617、pp133-139、Sep、2007
- 注 5) ヴェラスケスはエスパニョール島の征服によって最も裕福となった軍人であり、彼には、後にアメリカ大陸で名をなすエルナン・コルテス Hernán Cortés らが付き従っていたことが知られる 1。また、スペイン人のインディオの虐殺を告発することになるラス・カサス Bartholomew de las Casas は、ヴェラスケスの友人であり、共にキューバに移り、定住している。
- 注 6) Ley es de Indias: インディアスと総称されたスペイン領アメリカの植民地律法の総体を指し、法源はカスティリヤ法と本国から発せられた植民地のための諸立法から成る。植民地の経営には、既存の制度や法のみでは不十分であり、新たな制度や機関が導入され、多くの法令が本国から発せられた。1573 年のフェリペ II 世によるインディアス法はこれらのうちの代表である。17 世紀中ごろには既に 40 万件を超えており、1680 年にこれらを編纂したカルロス II 世による「インディアス法集成」が公布された。フェリペ II 世法とカルロス II 世法との比較については、加嶋章博、古山正雄、「スペイン植民都市計画法におけるフェリペ II 世法とカルロス 2 世法の継続性に関する考察」、日本建築学会計画系論文集、第 554、pp. 329-335、2002 年 4 月がある。
- 注 7) 第Ⅱ類型の典型であるヌエヴァ・パスについては別稿 (J.R.ヒメネス・ベルデホ、布野修司、山田協太、ヌエヴァ・パス (キューバ) の都市形成と街区分割に関する考察、Considerations on Urban Formation and Block Division of Nueva Paz (Cuba)、日本建築学会計画系論文集、第 623 号 pp、2008 年 1 月) としている。
- 注 8) 加嶋章博、『スペイン植民都市計画法に関する研究』、京都工業繊維大学学位請求論文、私家版、2003 年が、インディアス法の全訳を掲げて、考察を加えている。
- 注 9) 京都大学学術出版会、2005 年
- 注 10) キューバは 15 の州からなる。マタンザス州は、ハバナ La Habana 州とラス・ヴィヤス Las Villas 州の間に位置し、面積は 8、444 平方キロある。
- 注 11) 一時間に歩く距離をいう。古代のスペインでは、5572.7m とされる。英米では約 3 マイルとされる。1 legua = 5000 varas = 4.24 km。(1 vara cubana = 0.848 m)
- 注 12) R.ヒメネス・ベルデホ、布野修司、山田協太、ハトとコラル：キューバにおけるスペイン植民領域分割システムに関する考察、日本建築学会計画系論文集、第 625 号 pp、2008 年 3 月。
- 注 13) Jose Sotolongo の Cardenas del Corral (1714) と同じ土地。1714 年から 1821 年の間に Corral から Hato になったと考えられる。
- 注 14) ヴァラは、ピエ pie とともに、身近なスケールについて用いられる。ピエは「足」を意味し、ほぼフット (フィート) と同じである。1pie は約 1 フィート=0.278635m (12 プルガダ pulgada (インチ))。pie は「足」、pulgata は「親指の大きさ」を意味する。ヴァラは「木組、足場」に由来し、「細長い棒」を意味するが、3 ピアの長さを用いる。他にバルマ palma (「手のひら」)、ブラサ braza という単位が用いられ、1 ヴァラは 4 バルマ、2 ヴァラが 1 ブラサである。具体的には 1 ピエ=0.2786m、1 ヴァラ=0.8359m とされている。ただ、キューバ・ヴァラ vara cubana は 0.848m とされる。
- 注 15) 1 caballeria=60 ファネガス fanegas ファネガは麦畑の耕作単位 1 カバリエリアは、134,300 m² (キューバ)、785,800 m² (プエルトリコ)、386,300 m² (スペイン) と、地域によって異なる。また、1 カラレリア=18 コルデレス cordeles で、1 コルデレ=24 ヴァラである。
- 注 16) 1 カラレリアは、18×24=432 ヴァラ平方=186624 である。ヴァラを単位として、縦 (南北) =14+90+14+120+14+120+14+120+14+120+14+654 ヴァラ、横 (東西) =7+80+14+80+14+80+20+80+14+80+14+80+7=570 ヴァラ。面積=654*570 /2=186390 となって、ほぼ 1 カバリエリアである。
- 注 17) 都市図を入手した 110 都市のうち、3 つの広場を持つものは 5、3 つ以上の広場をもつものは 11 である。
- 注 18) J.R.ヒメネス・ベルデホ、布野修司、山田協太、シエンフエゴス (キューバ) の都市形成と街区分割に関する考察、Considerations on Urban Formation and Block Division of Cienfuegos (Cuba)、日本建築学会計画系論文集、第 626 号 pp、2008 年 4 月。

(2008 年 3 月 24 日原稿受理、2008 年 8 月 15 日採用決定)